

「復興五輪」に向けた取組

—東京オリンピック・パラリンピック競技大会における復興庁の関係機関と連携した取組—

2021年の東京大会が、「復興五輪」として被災地の復興の後押しとなるよう、支援への感謝を伝えつつ、復興する被災地の姿や魅力を世界に発信。

① 被災地での競技開催

- ・野球・ソフトボールは福島県(福島県営あづま球場)で開催
- ・サッカーは宮城県(宮城スタジアム)、茨城県(茨城カシマスタジアム)で開催



福島県営あづま球場(福島県)

② 聖火リレー

- ・福島県「Jヴィレッジ」を出発して被災地を駆け抜ける聖火リレーを実施
- ・聖火台及び聖火リレートーチ(福島県、愛知県、東京都の一部)に「福島水素エネルギー研究フィールド」で製造された水素を活用



Jヴィレッジを出発する聖火リレー
(提供:東京2020組織委員会)



選手村食堂でのポスターを掲示

③ 被災地産品の活用

- ・国立競技場のエントランスゲートの軒等に被災地産の木材を使用
- ・選手村食堂で被災地産食材を活用した料理を提供、ビクトリーブーケに被災地の花を活用



被災地の花を使用したビクトリーブーケ
(左:オリンピック、右:パラリンピック)
(提供:東京2020組織委員会)



メインプレスセンター内の復興ブース

④ ホストタウンによる機運醸成

- ・「復興ありがとうホストタウン」(被災3県において33市町村が登録)等、被災地でのホストタウンの登録推進

⑤ 復興の情報発信

- ・選手村の食堂において福島県産をはじめ被災地の食材が活用されている旨のPRポスターを掲示
- ・被災地の子ども達の復興と地域の魅力への理解増進を図るため、子ども復興五輪を被災地で開催
- ・交通広告(JR山手線の車内・車体広告等)を通じて被災地の魅力や復興五輪に関する情報を発信
- ・メインプレスセンター内の復興ブースにおいて、被災地の復興の状況や魅力等を伝えるスライド・動画を放映
- ・同ブースにて海外メディアに対して、語り部、生産者、政府によるブリーフィングを実施したほか被災地の食材や観光地の魅力等を伝え、情報発信をしてもらえよう、ポストカード、PRカードやチラシを配架(QRコードを付記し、食材やその安全性等の詳細情報も提供)
- ・パラリンピック関係者に福島県産の新鮮でおいしい安全な農産品を味わっていただき、風評払拭につながるよう、JAグループ福島から橋本組織委員会会長に対して、福島県産の桃及び梨を贈呈



福島県産の桃のPRカード



橋本会長への福島県産の桃及び梨の贈呈